

エンブレル[®]皮下注25mgペン0.5mL エンブレル[®]皮下注50mgペン1.0mL

注射時の注意のお願い

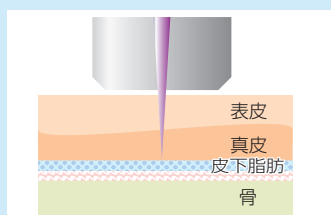
2021年2月
ファイザー株式会社

エンブレル[®]皮下注25mgペン0.5mL/エンブレル[®]皮下注50mgペン1.0mLにおいて、「針曲がりにより抜針困難になる事例」および「注射時に薬液が出づらくなる事例」が報告されています。以下に原因と対処法をお示しいたしますので、ご使用の際には今一度患者様へご指導いただきますようお願い申し上げます。

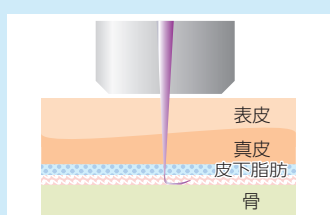
針曲がりにより抜針困難になる事例

抜針困難となる原因

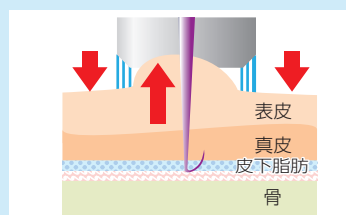
エンブレルペンを皮下組織が薄い(針先が骨に接触)または皮膚が硬い部位へ投与することにより、針先が鉤状に曲がることに加え、針カバーが下りて注射部位の皮膚を引きつけるため、抜針困難となると考えています。



注射ボタンの作動により、針が出始める。針は約6mm出ます。



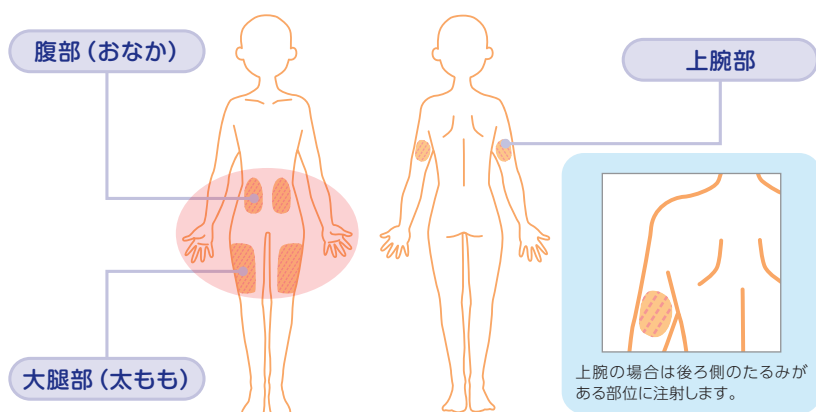
皮下組織が薄い(針先が骨に接触)、または皮膚が硬い部位へ投与することにより骨などの硬い組織に接触することにより、針の先端が曲がると考えられます。



注射液の排出が完了すると、針カバーが出るため、必然的に皮膚が引きつけられ、抜針困難になる。

(イメージ図)

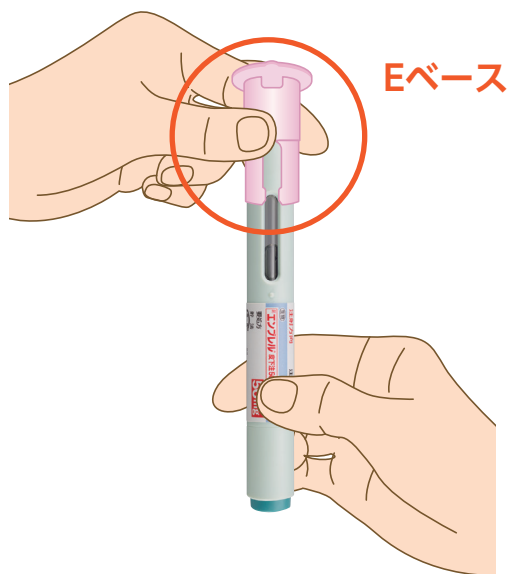
予防法①: 皮下注射に適した部位※



- 特に皮下組織が薄いと思われる患者さん(高齢者など)では、**腹部もしくは十分に厚みのある大腿部**に注射するようご指導ください。
- 上腕部への注射は医療従事者が行っていただきますようお願いいたします。

※自己注射にあたっては、最新の自己注射ガイドブックを参照するようご指導ください。

予防法②：Eベース（補助具）の使用



〈Eベース（補助具）のご使用について〉

- 患者自身もしくは介助者が注射する場合は、注射部位として上腕は避けるようご指導ください。
- 自己注射時はEベースをご使用いただくことで、エンブレルペンが投与部位に固定され、注射操作がスムーズになります。

抜針困難時の対応

- 抜針困難時は、軽くエンブレルペンを引っ張り、それでも抜けない場合は外科的処置を行ってください。
- エンブレルペンは頑強な作りの医療機器であるため、解体による抜針は推奨できません。

乾燥固化により注射時に薬液が出づらくなる事例

エンブレルペンをご使用の際は、投与約15～30分前に室温に戻し、使用直前までは、先端部キャップを外さないでください。

先端部キャップを外すことで瞬間的に陰圧になり、注射針内の薬液が僅かに漏れ、時間が経過すると漏れた薬液が乾燥固化し、薬液が出づらくなる事例が報告されています。

先端部キャップ



- エンブレルペンをご使用の際は、投与約15～30分前に室温に戻しておくようお願いいたします。
- 使用直前までは先端部キャップを外さず、先端部キャップを外した後は直ぐに使用するようご指導ください。

【製品に関するお問い合わせ先】

ファイザー株式会社 製品情報センター学術情報ダイヤル 0120-664-467

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル

Webサイト<http://pfizerpro.jp> (Pfizer pro)にも医療用製品情報を掲載しています